

氏名	寺 尾 章
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 139 号
学位授与の日付	昭和39年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	非定型脊髄性進行性筋萎縮症 (腰仙下腿上腿型) の 2 剖 検例ならびにその文献的考察
論文審査委員	教授 奥村 二吉 教授 小坂 淳夫 教授 砂田 輝武

学 位 論 文 内 容 要 旨

腰仙下腿上腿型脊髄性進行性筋萎縮症は、Bodechtel (1953) の記載以来諸外国に於てきわめて稀な疾患とされ、本邦に於て従来その実在性に疑いが持たれていた。最近教室では、ほぼ全経過にわたり臨床的観察を続行、更に剖検により本症と診断した 2 症例を経験しその臨床と病理両所見を報告した。著者はこれを機会に、進行性筋萎縮症の概念、分類の歴史的発展の跡をたずね、かねて本邦に於ける脊髄性進行性筋萎縮症に関する過去の報告例を集計し、その臨床剖検両所見を整理した。更に腰仙下腿上腿型の独立性と位置づけに関し、歴史的文献的考察を行い、主として筋萎縮性側索硬化症の 1. 痙性を伴わぬ型、2. 仮性多発神経炎型、3. 腓骨筋型との比較検討により、本症は此等 3 病型と病理組織学的に鑑別可能で、その臨床像はいわば錐体路障害を伴わぬ腓骨筋型とも見做し得ること、フランス学派のいう仮性多発神経炎型とは可なり隔つた病像を呈することを述べた。

備 考 1) 日本精神神経学会雑誌 第66巻5号 (1964)

2) 第3回および第4回 日本臨床神経学会総会 (1962, 1963)

論文審査の結果の要旨

寺尾章提出の「非定型脊髄性進行性筋萎縮症（腰仙下腿上腿型）の2剖検例ならびにその文献的考察」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

腰仙下腿上腿型脊髄性進行性筋萎縮症は、Bodechtel の記載以来諸外国に於てきわめて稀な疾患とされ、本邦に於て従来その実在性に疑いが持たれていた。

寺尾は、ほぼ全経過にわたり臨床的観察を続行、更に剖検により本症と診断した2症例を経験しその臨床と病理両所見を報告した。著者は、進行性筋萎縮症の概念、分類の歴史的発展の跡をたずね、かねて本邦に於ける脊髄性進行性筋萎縮症に関する過去の報告例を集計し、その臨床剖検両所見を整理した。更に腰仙下腿上腿型の独立性と位置づけに関し、歴史的文献的考察を行い、主として筋萎縮性側索硬化症の、痙性を伴わぬ型、仮性多発神経炎型、腓骨筋型との比較検討により、本症は此等3病理組織学的に鑑別可能で、その臨床像はいわば錐体路障害を伴わぬ腓骨筋型とも見做し得ることを述べている。

要するにこの論文は、腰仙下腿上腿型の脊髄性進行性筋萎縮症の存在を臨臨床的及び病理解剖学的に証明したもので新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。